

## 事業群評価調書(令和5年度実施)

基本戦略名	3-2 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る	事業群主管所属・課(室)長名	土木部 道路建設課	大我 正隆
施策名	1 人流・物流を支える交通ネットワークの確立	事業群関係課(室)	地域づくり推進課	
事業群名	② 高規格幹線道路・地域高規格道路の整備による高速交通ネットワークの構築	令和4年度事業費(千円)	※下記「2. 令和4年度取組実績」の事業費(R4実績)の合計額 9,148,386	

### 1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)		(取組項目)							
<p>観光の振興、企業立地の促進や物流の効率化には、地域間の時間短縮、定時性の確保やミッシングリンク※の解消が課題です。このため、地域の交流促進や連携強化に資する高規格幹線道路や地域高規格道路など、規格の高い道路の重点的な整備を推進します。</p> <p>※ミッシングリンク:高規格幹線道路等のうち未整備区間で途中で途切れている区間のこと</p>		<p>i)西九州自動車道(松浦佐々道路及び佐々IC～佐世保大塔IC間4車線化)の整備促進、西九州自動車道(佐世保大塔IC～武雄南IC間4車線化)の早期着手、東彼杵道路の早期事業化</p> <p>ii)島原道路の整備推進</p> <p>iii)西彼杵道路の整備推進</p> <p>iv)長崎南北幹線道路の整備推進</p> <p>v)島原天草長島連絡道路※の実現に向けた取組</p> <p>※島原天草長島連絡道路:長崎県島原半島～熊本県天草と熊本県天草～鹿児島県長島を2つの長大橋で結び、九州西岸地域を一体化する構想</p>							
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	高規格幹線道路・地域高規格道路の供用率	目標値①	59.2%	60.6%	62.1%	63.6%	64.2%	64.2%(R7)	
		実績値②	58.0%(R2)	60.6%				進捗状況	
	達成率②/①		97%	100%				順調	
									<p>西九州自動車道については、国が松浦佐々道路を整備しており、用地取得及び工事が進められている。また、佐々IC～佐世保大塔IC間の4車線化については、NEXCO西日本により整備が進められている。</p> <p>東彼杵道路については、国において進めていた計画段階評価手続きが令和4年度に完了した。続けて、環境影響評価手続きに着手しており、早期事業化に向けて進捗が図られている。</p> <p>島原道路については、令和4年5月に長野～栗面工区2.7kmが開通し、現在は国と県で4工区の整備を推進している。そのうち国で整備を進める森山拡幅の一部区間について、令和5年度の開通を予定している。</p> <p>西彼杵道路については、大串白似田バイパスの1工区で整備を推進しており、令和5年2月には時津工区3.4kmが開通した。また、長崎南北幹線道路についても茂里町～滑石工区の整備を推進している。</p> <p>今後も整備中区間の整備推進に必要な予算確保に努めていく。</p>

### 2. 令和4年度取組実績(令和5年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事業事業名	事業費(単位:千円)			事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和4年度事業の成果等	
				R3実績	うち一般財源	人件費(参考)		R3目標	R3実績	達成率		
取組項目1	○	1	企画調査費	50,644	50,644	6,232	国等への要望活動を行う際の資料として、現状の問題点や課題を整理したうえで、ストック効果(整備効果)などを整理した資料作成を行った。	【活動指標】	5		7	140%
				51,635	51,635	6,122			5	6	120%	
				83,485	83,485	6,173			5			
			—	—	—	【成果指標】		2	2	100%		
			道路建設課	—	—	—	国土交通省等	新規事業化箇所数(箇所)	1	1	100%	
									0			

取組項目 ii	○	2	島原道路の整備促進(公共)	8,652,325	73,182	—	(国)251号(出平有明バイパス) 用地取得、土工、擁壁工、橋梁工を推進した。 (国)251号(有明瑞穂バイパス) 地質調査、測量、設計を推進した。 (国)251号(瑞穂吾妻バイパス) 用地取得、橋梁下部工、函渠工、土工を推進した。 (一)諫早外環状線(長野~栗面工区) 舗装工等を推進し、R4.5月に開通した。	【活動指標】	4	4	100%	●事業の成果 ・長野~栗面工区は、橋梁下部工工事に不測の時間を要したため、令和4年5月の供用となった。また、瑞穂吾妻バイパスでは、用地取得が完了した箇所から本工事に着手できた。その他工区においても工事進捗が図られ、供用へ向けて前進した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・島原道路の事業進捗を図り、地域高規格道路の整備促進に寄与した。	
				7,130,580	87,197	—			事業箇所数(箇所)	3	3		100%
				6,267,990	151,765	—			【成果指標】	43	38		88%
			H20-	—			島原道路の供用率(%)	44	44	100%			
			道路建設課	—	—	○	道路利用者		50				
取組項目 iii	○	3	西彼杵道路の整備促進(公共)	3,239,160	82,852	—	(一)奥ノ平時津線(時津工区) 橋梁上部工等を推進し、R5.2月に開通した。 (国)206号(大串白似田バイパス) 測量、設計を推進した。	【活動指標】	1	1	100%	●事業の成果 ・時津工区は、順調に工事進捗し、令和5年2月に開通した。また、大串白似田バイパスでは、測量設計を行い、事業の進捗が図られている。 ●事業群の目標達成への寄与 ・西彼杵道路の事業進捗を図り、地域高規格道路の整備促進に寄与した。	
				1,613,240	23,757	—			事業箇所数(箇所)	2	2		100%
				460,200	5,904	—			【成果指標】	1			
			H25-	—			西彼杵道路の供用率(%)	38	31	81%			
			道路建設課	—	—	○	道路利用者		38				
取組項目 iv	○	4	長崎南北幹線道路の整備促進(公共)	46,946	23,709	779	(都)長崎時津縦貫線(茂里町~滑石工区) 測量、調査、設計を推進した。	【活動指標】	R3:調査路線数(路線)	1	1	100%	●事業の成果 ・茂里町~滑石工区は、測量や調査設計を推進した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・長崎南北幹線道路の事業進捗を図り、地域高規格道路の整備促進に寄与した。
				351,600	17,907	765			R4-:事業箇所数(箇所)	1	1	100%	
				846,700	3,354	772			【成果指標】	1			
			—	—			R3:調査設計成果品(式)	1	1	100%			
			道路建設課	—	—	○	道路利用者		47				
								R4-:長崎南北幹線道路の供用率(%)	47	47	100%		
取組項目 v	○	5	島原・天草・長島架橋構想等推進費	1,263	1,263	2,337	島原・天草・長島架橋建設促進協議会を通じて、国への要望活動や、三県(長崎県、熊本県、鹿児島県)の地域間交流連携事業などを実施し、国に対し、構想実現の社会的意義と地元の熱意を強く訴えるとともに、地元機運の醸成を図った。	【活動指標】	(国等への)要望活動回数(回)	2	2	100%	●事業の成果 ・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により開催できなかった構想推進地方大会等の行事を2年ぶりに開催し、啓発用リーフレットのリニューアルや国等への要望活動などを行った。 ・国による調査の再開には至らなかったが、今後も引き続き国に対し構想実現の意義を訴えていく。 ●事業群の目標達成への寄与 ・国等への要望活動や地域間交流連携事業を実施することで、地元機運の醸成を図り、目標達成に寄与した。
				1,331	1,331	1,531				2	2	100%	
				1,435	1,435	1,544			【成果指標】	2			
			S63-	—			島原天草長島連絡道路の実現に向けた調査の再開	数値目標なし	—	—			
			地域づくり推進課	—	—	—	島原・天草・長島架橋建設促進協議会		数値目標なし				

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>i 西九州自動車道(松浦佐々道路及び佐々IC～佐世保大塔IC間4車線化)の整備促進、西九州自動車道(佐世保大塔IC～武雄南IC間4車線化)の早期着手、東彼杵道路の早期事業化</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国において整備中である西九州自動車道の県内の供用率は68.2%であり、未供用区間であるミッシングリンクが19.1km残っている。また、佐々IC～佐世保大塔IC間の4車線化については、NEXCO西日本により整備が進められているが、佐世保大塔IC～武雄南IC間の4車線化については未着手である。これらのミッシングリンク区間の解消や4車線化の早期完成のためには、国に対して要望していくことが必要である。</li> <li>・東彼杵道路については、国において令和4年度から環境影響評価に着手されており、早期事業化に向けた要望を引き続き行っていくことが必要である。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西九州自動車道の事業主体は国であるが、県としても西九州道推進室を立ち上げ国の事業を支援するとともに、道路整備の必要性を示したストック効果などの資料を作成し、今後も引き続き、事業促進を国へ要望していく。併せて、未事業化区間についても早期事業化に向けた要望活動を国に対して行っていくこととしており、各工区に必要な予算確保の要望とともに働きかけていく。</li> </ul>
<p>ii 島原道路の整備推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は、国において1工区、県において4工区の事業を推進しており、必要な予算確保を行い整備推進を図った。このうち長野～栗面工区2.7kmが令和4年5月に開通した。</li> <li>・島原道路の供用率は令和4年度末時点で44%であり、ミッシングリンクとなる未供用区間が約28kmあるため、早期完成のためには引き続き国に対して必要な予算確保及び事業促進を要望していくことが必要である。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島原道路の整備は国で1工区、県で3工区を実施している。今後も引き続き必要な予算を確保するため国等への要望を行い、整備を推進していく。</li> </ul>
<p>iii 西彼杵道路の整備推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備を進めている時津工区3.4kmについては、橋梁上部工等を実施し、令和5年2月に開通した。</li> <li>・令和4年度に大串白似田バイパスを事業化した。引き続き国に対して必要な予算確保及び事業促進を要望していくことが必要である。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西彼杵道路は大串白似田バイパスを県において実施しており、今後も引き続き整備に必要な予算を確保するため国等への要望を行い、整備を推進していく。</li> </ul>
<p>iv 長崎南北幹線道路の整備推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に茂里町～滑石工区を事業化した。引き続き国に対して必要な予算確保及び事業促進を要望していくことが必要である。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎南北幹線道路については、今後も引き続き整備に必要な予算を確保するため国等へ要望を行い、整備を推進していく。</li> </ul>
<p>v 島原天草長島連絡道路の実現に向けた取組</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国における大型公共事業の見直しなどにより平成20年に海峡横断プロジェクトが凍結され、個別の架橋プロジェクトに関する調査が中止となり、厳しい状況が続いている。こうした中、国等への要望活動などを行ったが、国による調査の再開には至っていない。</li> </ul>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査再開に向けては、島原・天草・長島架橋建設促進協議会を通じた各種の普及啓発活動等を実施しながら、地元の機運醸成に務めるとともに、熊本、鹿児島両県、各地元期成会及び関係団体などと連携を図りながら一体となって事業の必要性を国に対して継続的に強く働きかけていく。</li> </ul>

#### 4. 令和5年度見直し内容及び令和6年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	令和5年度事業の実施にあたり見直した内容		令和6年度事業の実施に向けた方向性		
			事務事業名	※令和5年度の新たな取組は「R5新規」等と、見直しがしない場合は「—」と記載	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			事業期間 所管課(室)名				
i	○	1	企画調査費	—	①	令和6年度以降も予算確保や未着手区間の新規事業化に向けて、現状の問題点や課題を整理したうえで、道路整備に伴い活発になる地元の取組などを踏まえたストック効果(整備効果)などを整理した資料を作成し、国等へ要望活動を継続して行っていく。	現状維持
			—				
			道路建設課				
取組項目 v	○	5	島原・天草・長島架橋構想等推進費	地元の更なる機運醸成を図るため、地域間交流や普及啓発事業に係る取組を強化するとともに、令和3年度に実施した必要性調査による整備効果も踏まえたうえで、事業の必要性について国に対し強く働きかけていく。	⑨	構想推進に向けて、構想推進地方大会開催や三県サッカー大会などの地域間交流等の取組を通して地元の機運醸成を図るとともに、国等への要望活動を継続しながら、三県架橋建設に資する調査の再開、島原道路の整備促進及び島原天草長島連絡道路の具体化に向けた検討の実施、必要な道路整備のための予算確保について、関係機関等に強く訴えていく。	現状維持
			S63-				
			地域づくり推進課				

注:「2. 令和4年度取組実績」に記載している事業のうち、令和4年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができていないか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点